

# 旅館松前

◎旅館業



## 日本の伝統文化を体験できる 外国人観光客に人気の旅館

旅館松前は、狂言をはじめとした日本の伝統文化に触れられる旅館として外国人観光客に人気の旅館だ。館内には書・仏像などが飾られ、広間には日本画家による「鏡板」が描かれているなど和の雰囲気統一されている。また、狂言の上演の鑑賞や狂言衣装の着付け体験に加え、書道の体験をすることが評判で、リピーターになる外国人観光客も多いという。

### 狂言をはじめとした伝統文化の「体験」が 外国人観光客の心をつかむ

同旅館は、奈良市の古民家が立ち並ぶ風情あふれる街並みの一角にある。創業は昭和30年で、現在のおかみである柳井さんは2代目。客室数は15あり、総勢8名で切り盛りしている。創業当初は修学旅行生をメインとした経営だったが、現在の宿泊客の8割は外国人観光客との

こと。「狂言との出会いは約10年前の娘の習い事からでした。狂言のもつ奥深さに触れ、日本人の情を多くの方に感じてもらいたいと狂言の上演や衣装の着付け体験を始めました。狂言の他に、書道も体験していただいています。このような経験が国の内外を問わず喜んでいただいている理由のひとつかもしれません」と柳井さんは語る。

### 外国人観光客を特別扱いせず 普段通りに接客

柳井さんは、外国人観光客だからといって特別扱いせず、普段通りに丁寧に接客すること、ナショナルリティ（お国柄）で判断しないこと、先入観をもたないことが重要だと語る。「外国人観光客の方はクレームになったかと思えば大喜びすることもあり、感情豊かで無邪気な面が

あるのかなと感じます」と語る柳井さん。クレームになった時こそ逃げずに懐に飛び込むことが大事とのこと。例えば、興福寺の五重塔の明かりが消えるのが22時なので22時半を門限とする旨説明するが、それは早いと言う顧客には待つことができる旨伝え、折り合いをつけている。一方的にダメといわず、選択肢を示し顧客を遠ざけないことが重要だという。

また、インバウンド対応の一環として従業員

## 伝統的な和のおもてなしで 外国人観光客を惹きつける老舗旅館

の育成にも力を入れる。旅館松前に入った従業員には、一年間狂言の稽古をしてもらい、あいさつや行儀作法といった基本的な所作を覚えてもらっている。この稽古で身に付いた狂言の精神やメリハリのある動作は、日本の伝統文化が感じられる旅館の雰囲気づくりに一役買っているという。

旅館で提供する料理については、玄米食など

古くからの日本人の食生活を感じられるものを用意。また、奈良の名物である茶粥や奈良漬については、由来を記した案内書を付けている。

「食は日本の伝統文化をダイレクトに感じてもらえるものの一つです。特に外国人観光客の方は食材やその由来に興味津々なので、丁寧に説明すると大変喜ばれます」と語る柳井さん。

### 日本の伝統を伝える旅館として

今後も日本の伝統文化が感じられる旅館として営業を続ける姿勢はかわらないという。「当旅館が持つ雰囲気は、つい数十年前まで日本の何処にでもあったものだと思います。最近の住宅はとてもきれいで住みやすいですが、昔なが

らの日本の雰囲気はあまり感じられないものかもしれません。例えば、縁側や床の間といった伝統的な日本建築や、そこで暮らすことで感じる和の余白など何気ないけど大事なものを、当旅館ではできる限り残していき、その良さを未来に伝えていきたいです」。日本の伝統を伝えていく柳井さんの取組みは続く。



#### ● Profile

### 旅館松前

代表者 柳井 尚美 (やない なおみ)

所在地 奈良県奈良市東寺林町28-1

創業 1955年

従業員数 8人(うちパート・アルバイト4人)



代表者 柳井 尚美さん